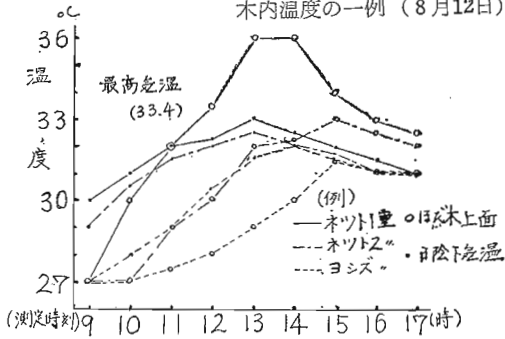


図一 2 底陰資材別日陰下気温とほだ木内温度の一例 (8月12日)

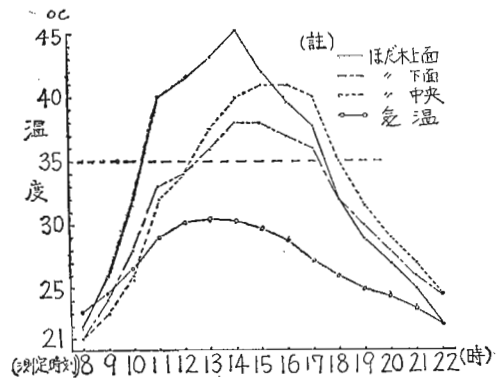


3.0°Cも高く、シイタケ菌に対する危険度の高いことが明らかである。

なお、直射光線下のほだ木内温度変化の一例を示すと第3図のとおり、上部部では最高45°C(最高気温より約14°C高)で、35°C以上の温度が7時間も続き中央部で42°C、下部部でも38.5°Cを示し、35°C以上が5~6時間続いている。

1日の中で、ほだ木内の温度が最高を示す時刻は、上、下部部で大体14時頃となり、中央部ではそれより約1時間後のようである。

図一 3 直射光線下におけるほだ木内温度変化の一例 (9月26日)



5. むすび

以上の結果から、ほだ木を直射光線下にさらすことは最も危険である。本年度日陰下で最高気温が30°C以上を記録した日は、ヨシズで53日、ネット2重で64日、ネット1枚で66日を数へ、しかもネット1枚日陰下では照度が4,000LX程度となり、ほだ木内温度の上昇率が高いことから、この程度の底陰資材では高温期における底陰度の調整が重要であるものと考えらる。

108. マツタケ試験について(Ⅲ)

長崎県総合農林センター 古賀 淳

本試験は林野庁のメニュー課題として昭和41年~43年に実施した3カ年の取纏めであり、調査区調査並に試験区の施業結果について報告する。

調査試験の方法 林野庁の方法書に基き調査を行い既報10施業区について施業を実施し、子実体発生の効果等を調査した。

1. 調査区調査

(1) マツタケおよび菌環調査表

調査区	20m × 20m	
a、菌環数、形	2環	1弧 2線
年拡大半径	41~42	15cm 42~43 10cm
b、菌環最大半径	41~4	m 42~m 4.60m 43~4.75m
c、最小半径	41~1.60m	42~1.70m 43~1.80m
d、発 生 量	41~43本	2.687g
	42~17本	1.029g
	43~23本	1.552g
	3カ年計83本5.268g	

- (2) マツタケ発生位置図 省略
- (3) マツタケ発生調査表 別表
- (4) 植生調査

イ、アカマツ調査表

立木密度	樹令	樹高	胸高直径	枝下高	枝張り	葉長	生長	被圧木	樹形、その他
本		cm	cm	m	m	(41)mm			
1,175	40				中	80.4			枝の植損多くマツクイムシ被害により逐年枯損している。
/ha	?	12.9	15.6	9.0	2.3	80.2	下少		
	46					(42)mm (43)mm 81.3			

※ 階層別グラフ作成

ロ、中層期および下層木調査表

	種名	本数		樹高平均		胸高平均		密度		湿度		被度
		本	m	m	cm	本	%	本	%	本	%	
中層木	1. ひさかき	158	3.5	3.1	395	34.4	—					
	2. あらかし	98	3.8	3.3	245	21.3	—					
	3. ねじき	65	5.0	4.6	163	14.2	—					
	4. ねずみもち	26	4.0	3.6	65	5.7	—					
	5. くろき	25	6.2	7.8	63	5.4	—					
	計	395	3.9	3.6	988	86.1	—					
下層期	1. つゞじ	37	3.2	2.6	93	8.0	—					
	2. しゃしゃんぼ	20	3.6	3.5	50	4.4	—					
	3. くちなし	5	2.7	2.1	13	1.1	—					
	4. ひぜんもち	1	2.2	2.5	3	0.2	—					
	5. こじい	1	3.5	2.8	3	0.2	—					
	計	64	3.0	2.7	162	13.9	—					

ハ、根量調査表※階別グラフ作成

層位	落葉落枝	粗腐植		腐種		A~B層
		3.0cm	2.5cm	3.0cm	3.0cm	
厚重	量	110.0g	160.0g	610.0g		
アカマツの根・太さ別	① 1mm 以下	79.7g	15.0g	11.4g		
	② 1 ~ 1.5	19.0	10.3	23.6		
	③ 1.5 ~ 3.0	27.7	15.1	26.8		
	④ 3.0 ~ 5.0	20.3	20.8	24.4		
	⑤ 5.0 ~ 10.0	27.7	60.0	55.1		
	⑥ 10.0 以上	74.2	96.7	200.3		
その他の根・太さ別	① 1mm 以下	21.0	6.1	5.9		
	② 1 ~ 1.5	9.1	4.3	10.3		
	③ 1.5 ~ 3.0	13.9	9.1	20.2		
	④ 3.0 ~ 5.0	16.5	23.5	14.8		
	⑤ 5.0 ~ 10.0	3.0	19.0	29.8		
	⑥ 10.0 以上	0	18.0	358.7		

※階別グラフ作成

(5) クレイ調査

調査区内で資料採取林試本場へ送付

(6) 気象調査

1959~1968年10カ年の月平均気温、降雨量を調査し、最近3カ年の気象をマツタケ発生についての関連図表を作成した。

(7) きのこ調査

最近3カ年の試験地に於ける他のきのこの発生状況を調査した。

2. 施業区の試験結果

43年度の灌水は9月12日 480ℓを動力噴霧器で灌水

区に対し実施した。

各施業区に於けるマツタケ発生量は別表の通りであった。

考察、マツタケの発生には気象、土壌、植生の諸因子が関与するものと考えられる。

各施業区の発生は区々であり、42年は旱害による凶作となり、43年は灌水の日から降雨が始まりその効果は現われなかった。

掻き起し区については、1区下降、4区増、5区やや増、8区増で本年度は増加傾向を示した。

庇蔭調節区は効果を示さなかった。

羊歯全刈区では増加傾向を示した。

羊歯条刈区でも増加の傾向であった。

各施業については以上の如くであったが害虫の被害によるアカマツの枯損が施業以外の要因としてマツタケの発生に影響を与へたことが考へられる。

昭和43年度 マツタケ発生量調査

長崎県マツタケ試験地 調査区

菌環番号	採取月日	本数			重量			備考	
		つぼみ	中つぼみ	開計	つぼみ	中つぼみ	開計		
A 1	10・11	1	1		g	g	g	g	
	〃・21	1	1		60			60	
	〃・30		1	1			20	20	
	11・1	2	2	4	55	72		127	
小計		2	2	3	7	55	155	92	302
A 2	10・30	2	2			70		70	
	11・1	2	2			90		90	
	11・6	2	1	3		175	115	290	
小計		6	1	7		335	115	450	
A 3	11・8	1		1	42			42	
小計		1		1	42			42	
A 4	—							—	
A 5	10・20		2	2			120	120	
	〃・21		1	1				63	
	〃・24		1	1		63		75	
	11・25		1	1		75	60	60	
小計		2	3	5			180	318	
A 6	—					138		—	
A 7	11・6	1	2	3	90	350		440	
		1	2	3	90	350		440	
小計		1	2	3	90	350		440	
合計		4	10	9	23	187	627	737	15,52

昭和43年度 マツタケ発生量調査

長崎県マツタケ試験地 施業区

施業 番号	採取 月日	本数			重 量				備考	施業 番号	採取 月日	本数			重 量				備考		
		つぼみ	中つぼみ	開	計	つぼみ	中つぼみ	開				計	つぼみ	中つぼみ	開	計	つぼみ	中つぼみ		開	計
1	12・25		1	1				80	80				1	1				163	163		
小計			1	1				80	80				1	1				158	158		
2	10・24	1	1	2			38	98	136				11・1	1	5	6	76	670	746		
	〳・30		1	1				120	120				小計	3	2	9	14	211	80	1,231	1,522
	11・6	1	2	3	40			180	220			8	11・1	5	2	1	8	315	17	102	534
	〳・19		1	1				40	40				〳・6	1	1	2		80	140	220	
小計		2	5	7	40	38	438	516					12・25		3	3			180	180	
3	10・30		2	2				156	156				小計	5	3	5	13	315	197	422	934
小計			2	2				156	156			9	10・30	1		1		50		50	
4	10・24	3	8	6	17	94	581	406	1,081				11・1	1	3	4	40		270	310	
	11・1	3	1	4	273			70	343				〳・6		2	2			140	140	
小計		6	8	7	21	367	581	476	1,424				〳・22		1	1			42	42	
5	10・30		2	1	3			114	288	402			小計	2	6	8	90		452	542	
	11・1	1	1	2	76	85		161				10	10・25		3	3			279	279	
小計		1	3	1	5	76	199	288	563				〳・30	1	1	2		32	65	97	
6	10・24	1	1	2	62			32	94				11・1		1	1			36	36	
	11・6		1	1		82		82					〳・8	1		1	32			32	
	11・1		4	4		210		210					〳・22		1	1			42	42	
小計		1	5	1	7	62	292	32	386				小計	1	1	6	8	32	32	422	486
7	10・21		1	1				140	140				合計	21	22	43	86	1,193	1,419	3,997	6,609
	〳・24	2	1	2	5	77	80	258	415												

109 マダケの開花に関する研究(Ⅲ)

— 回復処理と2次再生竹の生育について —

熊本県林業研究指導所 内 村 悦 三

マダケ林における開花後の更新の基礎として、種子に依存することが殆んど考えられない現在では、むしろ開花竹の基部および地下茎の芽子の一部から成長した再生竹にそのでだてを求めねばならない。したがって開花竹林の回復促進をもたらせるには、この再生竹を如何に活用するかにあるといえよう。しかし、再生竹には形態の異なるものがあり、その出現度も開花後の経過により違うので、今回はこれらを類別し、さらに開花後早期に生育する1次再生竹に尿素系肥料の施

与処理をおこなったところ、2次再生竹の発生と形態上に2、3の効果がみられたので、その結果について報告する。

1. 試験材料と方法

試験地の概況 阿蘇外輪山の内部にあるマダケ林(熊本県阿蘇郡久木野久石)で、南は外輪山の分水嶺となっている。林分は標高620mの山地中腹にあり、北向に孤状に降下した傾斜地である。開花する迄の林分は中庸林で、竹刀、扇骨材料を採取できる良竹を生産